

玉縄城とその周辺

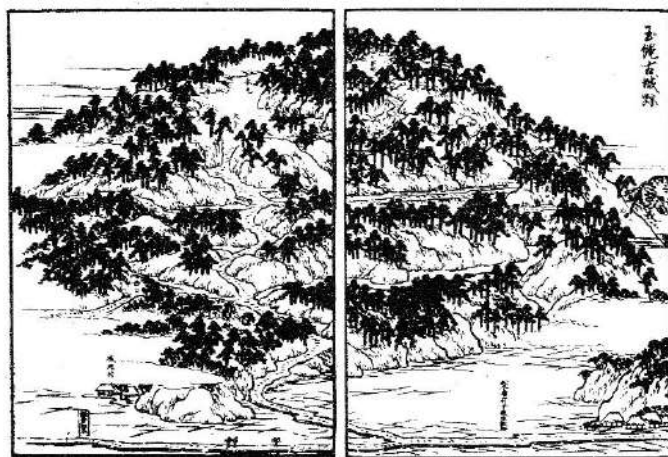
～福原高峰『相中留恩記略』の足跡をたどる～

2022.5.10

山本 雅博 記

天気予報で「梅雨のはしりのはしり」といわれた雨天続きの中、実施日の5月10日は運良く晴れの日となりました。参加者40名、3班に分かれ玉縄城に横手（清泉女学院正門）と正面（大手門＝清泉女学院裏門）の2回登る難コースに挑みました。

玉縄城は永正九年(1512)伊勢宗瑞(北条早雲)によって対立する三浦氏(三浦義同)の抑えとして築かれたといわれています。永正十三年(1516)三浦氏が滅亡した後は鎌倉を中心とした地域の支配と水軍の拠点として存続しました。堅城として知られ、大永六年(1526)安房の里見実堯の軍勢を戸部橋付近で撃退（この時地元の甘粕氏、福原氏にも多くの戦死者があり、今も「玉縄首塚」に祀られています）。また、上杉謙信、武田信玄が相模へ乱入した際も攻略を諦めています。今回、七曲坂を登り大手門前を通過してふわん坂を久成寺まで下りましたが、急な切岸や堀切、曲輪など攻略の難しさを感じる事が出来ました。



『相中留恩記略』「玉縄城」

本丸は清泉女学院の校内で入れませんが、最高部の諏訪壇（塁壁、早雲が信州諏訪神社を勧請した）へは、事前に電話で申し込めば見学できます。天正十八年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めにおいて、第六代玉縄藩主北条氏勝は山中城で敗北した後、玉縄城に籠城しましたが、家康の命を受けた龍宝寺（玉縄北条氏菩提寺）住職良達らの説得を受けて無血開城しました。その後、一国一城令を受けて元和五年(1619)廃城になりました。



玉縄城址碑
（清泉女学院側の諏訪壇などへの入口）

月一回第一日曜日に湘南台公民館で行っている地誌輪読会では、午後の部で『相中留恩記略』を読んでいます。天保十年(1839)に成立した『相中留恩記略』は、鎌倉郡渡内村の名主福原高峰（先祖は平姓の三浦一族といわれています）が相模国の名所旧跡のうち徳川家康由来の事績を記録した図絵（絵は長谷川雪堤）形式の地誌で、「家康への報恩」という色彩が強いとはいえ、『新編相模国風土記稿』には見られない記述も見られ、神奈川の地域史を知る貴重な資料とされています。

今回はその内容をたどる企画でもあり、巻之十八鎌倉郡之五のうち、龍宝寺（玉縄城主綱成、氏繁、氏勝の供養塔と位牌があります。季節の花が見事）、玉縄城跡、久成寺（寺領三石の朱印状、葵紋を寺紋とする）、貞宗寺（寺領十石、二代将軍秀忠の祖母貞宗院の菩提寺、明治まで徳川家の庇護を受け、檀家はありませんでした。寺紋は三葉葵です）を訪ねました。

なお、今回は時間がなく立ち寄れなかったですが、龍宝寺内の「玉縄歴史館」は、玉縄城の歴史史料や城址の模型、玉縄城周辺のジオラマ等が展示されていて、理解を助けてくれます。